

提出課題①：必要な情報の洗い出し、情報の取得方法の検討 (1/3)

解答例(あくまで一例です)

#	ヒアリングすべき内容	ヒアリングの目的	ヒアリング先
1	予知保全結果の活用方法	AI導入によって実現したいことを明らかにするため AI実装後の業務プロセスを検討するため	社長 (Story参照)
2	製造工程の全体像	AI実装後の業務プロセスを検討するため	製造部長・生産管理課長
3	保全業務の担当部署	AI化業務の詳細情報取得ヒアリング先を把握するため	製造部長・生産管理課長
4	保全業務の全体像(含む、検査対象となる機械の全体像)	AI実装後の業務プロセスを検討するため	製造部長・生産管理課長
5	保全業務の工程毎の作業内容	AI実装後の業務プロセスを検討するため	製造課・品質管理課担当者
6	保全業務の工程毎の必要人員数	想定効果を算出するため	製造課・品質管理課担当者
7	現状の故障によるインパクト	想定効果を算出するため	製造課・品質管理課担当者
8	現状の保全活動の故障予兆検知精度	AI導入における目標を設定するため 想定効果を算出するため	製造課・品質管理課担当者

提出課題①：必要な情報の洗い出し、情報の取得方法の検討(2/3)

解説 (1/2)

AIの導入プロジェクトの検討に当たっては、以下の点につき、顧客の要求を吸い上げ、開発要件として定義しておくことが必要となります。

- 前提として、そもそもAI導入により、何を実現したいか
- PoCではそのうちの何を検証するか
- PoCをどのように実施するか
- PoCにおいては、どのようなモデルを構築する必要があるか
- 上記モデルの要件は何か
- 上記モデルの設計方針はどのようなものとなるか

そのため、以下の情報を現場から吸い上げ、要求として定義していく必要があります。

ア. 予知保全の活用方法：社長へのヒアリング(模範解答例の項目#1)

- そもそも予知保全をAI化することで何を実現したいのか
- 実際のプロジェクトにおいては、顧客によっては、"とりあえず予測をAI化したい" が先に立ち、AIを何に使うのかが明確となっていない場合があります。プロジェクト初期の段階で、何のために予測をするのかを改めて明確化し、顧客とすり合わせておく必要があります。

イ. AIによる予知保全を活用する工程の全体像・工程ごとの課題：社長・製造部長・生産管理課長へのヒアリング (模範解答例の項目#2-4)

- どのように製造がおこなわれており、現状どのように保全業務がおこなわれ、どのような課題があるのか

ウ. 予知保全結果を活用する工程の詳細：製造課・品質管理課担当者 (模範解答例の項目#5-7)

- 誰が、どのように、AI化対象となる業務を行っているのか、また故障発生時のインパクトはどの程度か

エ. AI化対象業務に必要な精度目標：製造課・品質管理課担当者 (模範解答例の項目#8)

- 現状どの程度故障予兆を検知できていて、AIによる予知保全を導入するにあたって求められる予測精度はどの程度か

提出課題①：必要な情報の洗い出し、情報の取得方法の検討(3/3)

解説 (2/2)

また、AI導入プロジェクトにおいては、以下のような観点についての検討も有効な場合があります。

必要に応じ、現場から要求を吸い上げるのと同時に、以下のような観点についても検討・調査を行い、業界や現場に即した提案ができるよう心がけましょう

- 同一業界での先進導入事例
 - 顧客の要求を踏まえ、要件を定義したり、実装計画を立てたりするにあたり、先進事例ではどこまで実現できているのかを理解し、議論できるようにしておくことも有効です
- 顧客のビジネスモデル・強味/課題
 - 本教材においては、比較的、AIモデルを業務のどこに活用したいかが顧客側で明確になった状態で相談が持ち込まれています
 - 一方で、現実のプロジェクトでは、いざ話を聞いてみたらどこにAIを活用したいか明確になっていなかった、他に優先的にAI活用を検討した方が良さそうな課題があった、というようなケースも存在します
 - そのような場合には、顧客のビジネスモデルの全体像を理解し、改めて、何のために、どこにAIを導入すべきかの議論ができると、よりよい提案となる場合があります